横浜港発祥の地の今昔

横浜開港160年と税関

※関東大震災直前の地図に――で
現在の海岸線を重ねています。

旧税関事務所遺構

大正３年（1914）に建設された煉瓦造りの税関事務所。船舶の係留、貨物の取扱い等の事務を行っていました。

この建物には、ガス暖炉、白熱電灯、給水管等、当時としては最先端の技術が用いられていました。また、特別応接室は貴賓の休憩にあてるため、豪華に造られていました。

大正 12 年の関東大震災により瓦解。

赤レンガ倉庫

赤レンガ倉庫は、税関が輸出入貨物を管理するために、明治末期から大正初期にかけて建設した当時最新鋭の倉庫でした。関東大震災により１号館の半分が壊れました。

平成４年に国から横浜市に譲渡され、平成14年、今日のような商業・文化施設としてリニューアル・オープンしました。

万国橋の税関マーク

かつてここは税関構内の入り口でした。橋のたもとに税関マークが彫られています。

税関倉庫跡

写真：公園整備前 平成19年1月撮影

明治 29 年頃に建設された横浜税関倉庫（当時の地図には「煉瓦二階建倉庫」と記されている）のレンガ造りの土台及び物揚場らしき石畳。

土台の一部には関東大震災で焼けたとみられる箇所もあり、歴史を感じさせます。

貨物線路転車台跡

写真：公園整備前 平成20年5月撮影

開港150周年記念事業として整備中の「象の鼻地区」から、横浜税関二代目庁舎（明治18～大正12年）構内の倉庫（輸入上屋）の遺構が発見されました。

写真は、岸壁の起重機で船から陸揚げした貨物を税関構内の倉庫に運搬する貨車の線路等のほか、石造りとレンガ造りの土台です。

神奈川運上所跡

安政６年（1859）、横浜開港のため、神奈川運上所が開設されました。

運上所は関税事務及び外交事務を担う機関であり、後に横浜税関となりました。

明治16 年、この地にあった税関庁舎を県庁に譲渡し、税関は、かつて運上所のあった象の鼻地区に戻りました。

新しい税関庁舎は後に関東大震災で焼失し、昭和９年（1934）、現在の地に税関庁舎が建設されました。